地域研究集会

2023 年度九州沖縄地区合同シンポジウム
海と陸域･河川の結合システム

日　時：2023 年 12 月 8 日（金）　10:00～17:10
会　場：春日市春日公園 6–1　九州大学応用力学研究所 W601
共　催：日本海洋学会西南支部，日本海洋学会沿岸海洋研究会，九州大学応用力学研究所
コンビーナー：木田新一郎（九大応力研）・広瀬直毅（九大応力研）
参加申込：参加申込は不要です．＊対面のみ開催
問合せ先：kida@riam.kyushu-u.ac.jp（木田）
挨　拶：米崎史郎（一般社団法人水産海洋学会副会長）　10:00～10:05
中野俊也（日本海洋学会西南支部長）　10:05～10:10
趣旨説明：木田新一郎（九大応力研）　10:10～10:15

【基調講演】
座長：木田新一郎（九大応力研）
1.　「海色衛星を利用した海と陸域・河川の結合システムの把握」　10:15～10:55
石坂丞二（名大宇宙研）

【一般講演】
2. 豊かな森の栄養が豊かな海を育むか？－国東半島を例に－　10:55～11:15
山下　洋（京大フィールド研セ）・杉本　亮（福井県立大海洋生物）・
田村勇司（大分県東部振興局）・Lavergne Edouard（Plastic@Sea）・笠井亮秀（北大水）
3. 閉鎖性海域（久美浜湾）における貧酸素水塊の解消過程
―冬季の鉛直混合を阻害する淡水流入―　11:15～11:35
船越裕紀・田中雅幸（京都海セ）・小林志保（京大院農）・藤原建紀（京大フィールド研セ）
4. マクロタイダルな河川感潮域は海域への主要な栄養塩ソースになるか？－夏季の六角川における場合－
11:35～11:55
速水祐一（佐賀大農）・高巣裕之（長崎院水環）・小森田智大（熊県大環）
（休憩）　11:55～13:10

【基調講演】
座長：広瀬直毅（九大応力研）
5.　港湾施設の被災状況把握のための ICT 活用と今後の展望について　13:10～13:50
芳倉勝治（株式会社パスコ）

【一般講演】
6. リアルタイム河川流入モデルを組み込んだ海洋予測モデルの応用―2023 年台風 2 号大雨による流木漂流
13:50～14:10
美山　透（JAMSTEC APL）・宮澤泰正（JAMSTEC APL)・石井　洋（神奈川水技セ)
7. 係留系とタンク法を用いた河口干潟における底生微細藻類と植物プランクトンの基礎生産の定量
14:10～14:30

尾崎竜也・山下奈々・本田陸斗・中津伸彬・馬込拓海（熊県大環）・田井　明（福工大）・
山田勝雅（熊大）・小森田智大（熊県大環）

8. 緑川河口干潟におけるアサリの生物生産が基礎生産者に与える影響　14:30～15:00
山下奈々・尾崎竜也・本田陸斗・小森田智大（熊県大環）

（休憩）　15:00～15:10

座長：大貫陽平（九大応力研）

9. 冬季に河口干潟に飛来するカモ類のベントスへの影響と水深に対するカモ類の応答　15:10～15:30
本田陸斗（熊県大環）・山下剛久（JAMSTEC）・小森田智大（熊県大環）

10. 冬季の緑川河口干潟におけるカモ類を高次捕食者とした生態系構造の解明　15:30～15:50
小森田智大・府高大祐・本田陸斗・山下奈々・尾崎竜也・阿草哲朗（熊県大環）・
藤林　恵（九大）・高野茂樹（熊本野鳥の会）・山下剛久（JAMSTEC）

11. 河川フロントの流速場の高解像度推定　15:50～16:10
杉原光都（九大総理工）・木田新一郎（九大応力研）

12. 等密度面モデルの陸域への拡張による，白川流域における水文過程の検証　16:10～16:30
佐藤啓明・山敷庸亮（京大総合生存学館）・木田新一郎（九大応力研）

13. マクロ沿岸海洋学「沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価」　16:30～16:50
遠藤貴洋（九大応力研）・郭　新宇（愛媛大沿環研セ）・小針　統（鹿大水）・張　勁（富山大理）・
仁科文子（鹿大水）・吉江直樹（愛媛大沿環研セ）・中村啓彦（鹿大水）・
森本昭彦（愛媛大沿環研セ）・木田新一郎（九大応力研）・滝川哲太郎（長崎院水環）

【総合討論】
進行　木田新一郎・広瀬直毅（九大応力研）　16:50～17:10

閉会の言葉　17:10

開催趣旨：九州周辺域では毎年のように集中豪雨・台風によって河川が増水し，大量の淡水が海洋に流入するイベントが発生している．河川水は栄養塩を始めとした陸域から海への物質流入の源であることから，気候変動にともなう河川水の流入量・出水期の変化は水産や海洋環境に大きな影響をもたらすことが考えられる．河川を通じた陸と海洋のつながりに関する研究の多くは湾ごとに進められることが多いが，九州沿岸は黒潮・対馬海流とともに長江希釈水，とより大きい空間スケールで起こる塩分変動の影響も受けている．そこで本シンポジウムでは九州・沖縄を中心とした湾・海域・広域で進められている海と陸域・河川水との繋がりに関わる研究事例を紹介する．これまで各海域で蓄積されてきた知見を集約し紹介・比較することで，海域ごとの特異性の抽出および広域的な共通性の発見，さらに今後の海域間の連携研究を推進する．